

# JGA NEWSLETTER

【編集・発行】一般社団法人 日本消化管学会 〒112-0005 東京都文京区水道2-1-1 株式会社 勁草書房コミュニケーション事業部内 TEL.03-5840-6338

## 日本消化管学会ニュースレター



vol.16 <Winter 2015>

<http://www.jpn-ga.jp/>

### contents

第12回日本消化管学会総会学術集会 会長挨拶……………	1	胃腸科専門医制度と今後のスケジュールについて……………	8
第12回日本消化管学会総会学術集会 プログラム概要……………	2	暫定処置による胃腸科指導施設 名簿……………	9
第12回日本消化管学会総会学術集会 交通と宿泊のご案内……………	3	理事会・各種委員会報告……………	13
平成27年度日本消化管学会教育集会報告……………	4	日本消化管学会プライバシーポリシー……………	15
第13回日本消化管学会学術集会……………	5	<i>Digestion</i> 誌査読者リスト……………	16
平成28年度日本消化管学会教育集会……………	5	会員の皆様へー事務局からのお知らせ……………	16
GI Weekについて……………	5	JGA NEWSLETTER編集組織……………	16
学術的トピックス			
カプセル内視鏡の話題～小腸、大腸カプセル～……………	6		
大腸cT1b癌 (SM高度浸潤癌) に対する 摘除生検としてのEMR/ESDの可能性……………	7		

### 第12回日本消化管学会総会学術集会 会長挨拶

獨協医科大学病院 病院長／獨協医科大学消化器内科 主任教授 平石 秀幸

このたび、第12回日本消化管学会総会学術集会を主催させていただき獨協医科大学消化器内科の平石秀幸です。本総会学術集会を2016年2月26日（金）から27日（土）の2日間、京王プラザホテル（東京・新宿）にて開催致します。

日本消化管学会の設立の経緯を簡単に振り返ってみます。平成16（2004）年4月10日に発起人会に引き続いて、第1回理事会が開催され本学会が正式に発足しました。定款をみますと、設立の目的は「消化管学に関する基礎的および臨床的研究の奨励をなし、もって消化器病学の向上発展を図り、人類の福祉に寄与することを共通の目的とする」旨、記載されています。平成17（2005）年1月28日から29日にかけて、第1回日本消化管学会総会が当時の名古屋市立大学大学院医学研究科臨床機能内科学の伊藤誠教授（日本消化管学会初代理事長）を会長として、名古屋国際会議場において開催されました。個人的なことで恐縮ですが、初日1月28日の午前9時から6会場並列で始まった学会発表の第3会場、一般演題の座長を担当させていただいたことははっきりと覚えております。平成18（2006）年2月の第2回学術集会は獨協医科大学寺野 彰学長（2代理事長）を会長として、東京の京王プラザホテルで開催され、その後順調に回を重ね



学会も発展し、平成28（2016）年2月、第12回の総会学術集会を迎えます。2015年からは、本学会の理事長も3代目の坂本長逸先生から藤本一眞先生にバトンタッチされ第2世代に移行しました。

第12回日本消化管学会は、2月26日から28日までのGI Weekとして2月28日に開催される第9回日本カプセル内視鏡学会学術集会、第48回胃病態機能研究会との合同運営となります。消化管に関連する三つの学会・研究会が一堂に会し、合理的、効率的に学術研究の発表の場を提供する試験的な開催で、平成27（2015）年に初回の試みとして実施され大成功を収めました。今後は、そのほかの可能性のある学会・研究会の参加をいただきながら、今後大きく飛躍してゆくものと期待されています。

今回の学術集会では特別企画を3コマ企画し、その準備を進めております。特別企画1として「大腸ESDの新展開」、特別企画2として「日本から発信するIBD診療の新たなエビデンス」、特別企画3として「消化管学とイノベーション」を設けました。多くの会員にご参加いただき、実り豊かで意義深い学術集会になりますよう、先生方のご協力をお願いする次第であります。議論を深め、本学術集会が消化管学の発展に多少なりとも貢献できますれば、獨協医科大学消化器内科の我々にとりまして幸いです。

## 第12回日本消化管学会総会学術集会 プログラム概要

平石 秀幸

第12回学術集会では、「消化管学の新規エビデンスを求めて」をテーマとしました。このテーマに関して、敢えて消化管学と肝臓病学とを比較してご説明します。肝臓病学では、たとえば急性肝炎の診断では、臨床症状に加えて肝機能検査のごとく具体的に基準値を超える異常な数値、肝炎ウイルスマーカーのごとく陽性/陰性で客観的に表現されます。一方、消化管学では、診断、治療において、その根拠を画像の読影など主観に頼る場面に遭遇します。誤解を恐れずに具体例を挙げますと、本邦の医学教育モデルコアカリキュラム(平成22年度改訂版)では、胃・十二指腸疾患の到達目標のなかに、“消化性潰瘍のステージ分類(活動期、治癒期、癒痕期)を説明できる”という項目があります。癒痕期では、S1として赤色癒痕、S2として白色癒痕に分類するものです。これに関して、1980年代後半の国際学会研究会での討論を思い出します。当時、日本では常識とされていた、赤色癒痕、白色癒痕の概念を提示し、白色癒痕までに至れば潰瘍再発は低くなるとする日本人研究者に対して、欧米の研究者から「その中間のピンク期はないのか」と質問がなされました。欧米での潰瘍のステージ分類は、open or closed(開いているか閉じているか)のいずれかでした。今から30年近く前の議論ですが、妙に納得したのを記憶しています。その後、消化性潰瘍の成因として*Helicobacter pylori*感染の意義が明らかにされ、除菌により再発はほぼなくなり、さらにその他の消化管疾患、非消化管疾患とも深く関わるのが証明されたのは医学研究の歴史が示す通りです。2013年度の医療費は、前年度より2.2%多い40兆610億円で確定しました。7年連続で増加し、はじめて40兆円を超えました。国立社会保障・人口問題研究所によると、本邦では平成47(2035)年に高齢者人口が3分の1の割合になると予測されています。増え続ける社会保障費などへの対応、また生活環境・習慣の大幅な変化により日本人の消化管疾患の構造変化も起こりつつあることを考慮し、消化管学においても新規エビデンスを集積し、適切でより合理的な医療を再構築することが望まれます。

今回の学術集会の特徴と内容をご紹介します。一定期間継続して同一テーマで学術討論を実施するコアシンポジウムは、本学術集会の大きな特徴であります。同一テーマを3年間にわたり討論することにより、その分野の現時点におけるサマリーを得ることができ、研究の方向の妥当性を合理的に評価できます。学術企画委員の先生方によって慎重に討議選択され、第11回の学術集会から更新され第13回まで続くコアシンポジウムのテーマは、「消化管悪性腫瘍：内科治療と低侵襲外科治療の接点」、「炎症性腸疾患：内科、外科からみたIBD手術後の問題点」、「機能的疾患：機能的ディスペプシアの新展開」、「内視鏡：小腸病変の診断・治療の現状と未来」の4項目です。第一線でご活躍中のエキスパートの先生方にご司会いただき活発な討論がなされ、3年間で一定の小括が得られるものと期待されます。また、ESDフォーラムでは「十二指腸腫瘍性病変(非乳頭部)に対する内視鏡治療のエビデンス」をご議論いただきます。上部消化管と下部消化管の症例検討セッションは例年多くの先生

方にご参加いただく人気の企画です。ワークショップは13セッション設けました。教育講演は「頭頸部表在癌の診断と治療」、「胃がん検診とABC分類のエビデンス」、「NSAID起因性消化管傷害の治療」、「小腸内視鏡の適応と手技」、「炎症性腸疾患の内視鏡診断」、「進行大腸癌に対する集学的治療」に関する6題で、興味深くかつタイムリーな主題です。

今回の学術集会では特別企画を3コマ設けました。第2日目の2月27日第1会場のプログラムは、特別企画1として、本邦において死亡者数の増加が持続しがん死亡の第1位である大腸癌を対象として「大腸ESDにおける新展開」(司会：斎藤 豊先生、演者：藤城光弘先生)、特別企画2として、患者数の増加が著しく難治である炎症性腸疾患を対象として「日本から発信するIBD診療の新たなエビデンス」(司会：松本主之先生、演者：渡辺 守先生)を当該領域のリーダーにご依頼しました。ついで、理事長講演としまして、藤本一眞理事長に「消化管学研究の進め方：今後の臨床研究を中心に」をご講演いただきます。午後からは、Dr. Schiller LRによるACG招待講演「New paradigm for gastrointestinal infections」の後、特別企画3として「消化管学とイノベーション」という大きなタイトルの下、森本卓郎先生(獨協大学経済学部教授)に「新自由主義と医療」、小松裕先生(自由民主党衆議院議員)に「医療技術イノベーションと政治」、最後に寺野 彰先生(獨協学園理事長、日本カプセル内視鏡学会理事長)に「消化器癌におけるInnovation」をご講演いただく予定です。この三人の先生方は、私の個人的、あるいは本学術集会を主催させていただく獨協医科大学を含めた獨協学園に密接に関わっていただいている方々です。

第12回学術集会は、消化管学の新規エビデンスを求めて、消化管領域における主要な課題を包括的に取り上げたプログラムになったと自負しております。多くの先生方にご参加いただき、積極的にご討論いただくことにより、消化管学の新規エビデンスの構築に一步でも前進できるとするならば、我々獨協医科大学消化器内科の医局員の喜びとするところであります。平成28年2月26日と27日、東京の京王プラザホテルでお会いできることを楽しみに致しております。

第12回  
日本消化管学会総会学術集会  
2016年2月26日(土)~27日(日)  
会場 京王プラザホテル 東京都目黒区東目黒2-1  
司会 平石 秀幸

消化管学の新規エビデンスを求めて

GI Week  
2016年2月26日(土)~28日(月)

第12回 日本消化管学会総会学術集会(26日) ●(27日) ●  
第13回 日本カプセル内視鏡学会学術集会(27日) ●(28日) ●  
第44回 消化器腫瘍学研究会(27日) ●(28日) ●

www.keiso-comm.com/12jga/index.html

第12回日本消化管学会総会学術集会 交通と宿泊のご案内

平成28年2月26日（金）・27日（土）於：京王プラザホテル



ホテル一覧

- A 京王プラザホテル**  
〒160-8330 新宿区西新宿2-2-1  
TEL : 03-3344-0111 (代表)  
FAX : 03-3345-8269 (フロント)
- B ヒルトン東京**  
〒160-0023 新宿区西新宿6-6-2  
TEL : 03-3344-5111 (代表)  
FAX : 03-3342-6094
- C ハイアット リージェンシー 東京**  
〒160-0023 新宿区西新宿2-7-2  
TEL : 03-3348-1234 (代表)  
FAX : 03-3344-5575
- D 新宿ワシントンホテル**  
〒160-8336 新宿区西新宿3-2-9  
TEL : 03-3343-3111 (代表)  
FAX : 03-3342-2575
- E イビス東京新宿**  
〒160-0023 新宿区西新宿7-10-5  
TEL : 03-3361-1111 (代表)  
FAX : 03-3369-4216
- F ホテルサンルートプラザ新宿**  
〒151-0053 渋谷区代々木2-3-1  
TEL : 03-3375-3211 (代表)  
FAX : 03-5365-4110
- G ホテルローズガーデン新宿**  
〒160-0023 新宿区西新宿8-1-3  
TEL : 03-3360-1533 (代表)  
FAX : 03-3360-1633

新宿駅西口より（JR・私鉄・地下鉄）

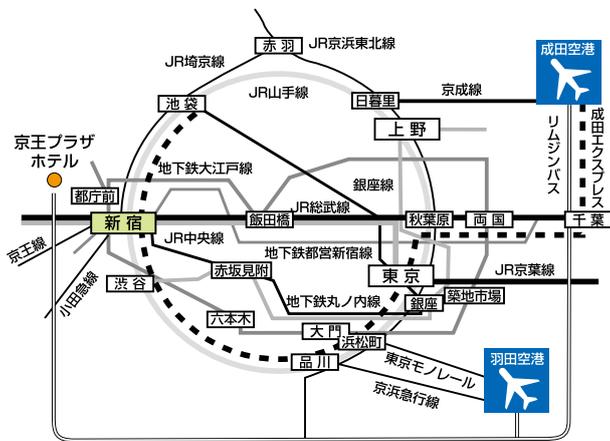
新宿駅西口より都庁方面への連絡通路をまっすぐ5分ほどお進みください。地下道を出てすぐ左側にホテルがございます。

都庁前駅より（都営大江戸線）

改札を出てJR新宿駅方面に進み、B1出口階段を上がってすぐ右側にホテルがございます。

羽田空港・成田空港より

羽田空港、成田空港との直通リムジンがございます。  
お問合せ：第12回日本消化管学会総会学術集会 運営事務局  
TEL : 03-5840-6339 FAX : 03-3814-6904  
E-mail : 12jga-office@keiso-comm.com  
URL : <http://www.keiso-comm.com/12jga/>



出発地	到着地	始発	最終	所要時間	料金
成田空港	JR新宿駅	5:55	19:39	80分	大人3,190円 子供1,590円 *普通指定料金
成田空港	京王プラザホテル	7:44	21:44		
羽田空港	京王プラザホテル	5:50	17:45	95~130分	大人3,100円 子供1,550円
羽田空港	京王プラザホテル	7:05	22:30		
羽田空港	京王プラザホテル	4:30	19:20	45~75分	大人1,230円 子供620円
羽田空港	京王プラザホテル	8:30	22:55		

## 平成27年度日本消化管学会教育集会報告

【テーマ】腸疾患診療の進歩を中心に

【会場・日時】JR博多シティ9階「JR九州ホール」

平成27年9月6日（日）11：00～15：30

平成27年度（第9回目）日本消化管学会教育集会を小生が担当し、福岡で開催しました。本会は、これまで8回行われ、食道領域、胃領域、腸領域に加え全領域にまたがるテーマなどの講演が取り上げられてきており、今回のテーマは、「腸疾患診療の進歩を中心に」と致しました。講演は食道から大腸に至る領域を網羅する6題で、会場は、博多駅に隣接した「JR九州ホール」で、参加者は380名でした。

プログラムは、講演1が「機能異常による食道疾患」（三輪洋人先生、兵庫医科大学 内科学消化管科）で、新たな検査法が進歩し、機能異常を呈する疾患の概念が固まり、診療ガイドラインも作成されつつありますので時宜を得た内容であったと思います。講演2は「胃癌ESDの現状とこれから」（小野裕之先生、静岡県立静岡がんセンター 内視鏡科）で、本邦の開発当初からの経緯と、最近完成したガイドラインなどです。講演3は「免疫統御からみた潰瘍性大腸炎・クローン病治療の新展開」（日比紀文先生、北里大学北里研究所病院 炎症性腸疾患先進治療センター）ですが、最近診療上の進歩も著しい領域なので、その根拠となる病態について解説がいただけました。講演4は「小腸内視鏡検査診療ガイドライン」（大宮直木先生、藤田保健衛生大学 消化管内科）で、カプセル内視鏡とバルーン内視鏡がはたす小腸疾患に対する診療について両検査の立ち位置も含めて話していただきました。講演5は「小腸潰瘍症の病態」（松本主之先生、岩手医科大学 消化器内科消化管分野）で、非特異性多発性小腸潰瘍症の病態と他の炎症性疾患との比較などお話しいただきました。講演6は「IBDに合併する癌手術症例の現状」（池内浩基先生、兵庫医科大学炎症性腸疾患外科）を講演いただきました。

福岡大学筑紫病院消化器内科 松井 敏幸

先生は、この領域で最も経験が多く、急速に増加しつつあるIBDに伴う発癌を外科医のみならず内科医など臨床家にとっても理解しやすく話していただきました。以上のように最新の内容を基本的事項の上に重ねて拝聴できる良い機会となりました。また、理事やその方面の実力者に司会をしていただくこともできました。教育集会は、これまで7回が東京開催であり、1回が大坂開催でした。今回は地方都市での開催ですから、集客や交通などには気を配りました。幸い天候にも恵まれ多くの方に福岡の会場に来ていただけました。かなり専門性の高い内容でもあり、有意義な講演会であったと思います。



## 第13回日本消化管学会学術集会

日 程：2017年2月17日（金）～18日（土）  
 会 場：名古屋国際会議場  
 〒456-0036 愛知県名古屋市熱田区熱田西町1-1  
 TEL：052-683-7711（代表）  
 会 長：城 卓志（名古屋市立大学大学院医学研究科  
 消化器・代謝内科学 教授）  
 お問い合わせ先：第13回日本消化管学会総会学術集会運営事務局  
 TEL：03-5840-6339  
 最寄駅：「西高蔵」「日比野」（地下鉄名港線・名城線）  
 下車徒歩5分

## 平成28年度日本消化管学会教育集会

平成28年度日本消化管学会教育集会は下記の開催予定です。  
 詳細が決定しましたら、ホームページに掲載致します。  
**参加には事前登録が必要です。**  
 日 程：2016年9月11日（日）  
 会 場：名古屋国際会議場 センチュリーホール  
 〒456-0036 愛知県名古屋市熱田区熱田西町1-1  
 TEL：052-683-7711（代表）  
 定 員：800名（予定）  
 当番世話人：後藤 秀実（名古屋大学大学院医学系研究科  
 消化器内科学 教授）  
 テーマ：消化管疾患治療の将来を見つめて

## GI Week について

平成27（2015）年度より、日本消化管学会では、GI Weekと称し日本消化管学会総会学術集会を日本カプセル内視鏡学会学術集会、胃病態機能研究会と同時期に開催することになりました。第9回日本カプセル内視鏡学会学術集会と第48回胃病態機能研究会の開催日と会費は右記の通りです。ふるってのご参加をお願い致します。

開催日：平成28（2016）年2月26日（金）～28日（日）  
 開催場所：京王プラザホテル  
 会 費：日本カプセル内視鏡学会、胃病態機能研究会のいずれか、または両方参加：7,000円（受付27日夕方～28日）  
 ※1 日本消化管学会学術集会は別途10,000円  
 ※2 コメディカルの方の場合は3学会通して参加しても、このうち1つまたは2つだけでも一律3,000円です。受付時証明書をご提示ください。



Protection & Healing

しっかり守って、きれいに治す。

胃炎・胃潰瘍治療剤 薬価基準収載

日本薬局方 レバミピド錠

**ムコスタ錠100mg**

Mucosta® tablets 100mg

胃炎・胃潰瘍治療剤 薬価基準収載

レバミピド顆粒

**ムコスタ顆粒20%**

Mucosta® granules 20%

**〔禁忌（次の患者には投与しないこと）〕**  
 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

〔効能・効果〕及び〔用法・用量〕

〔効能・効果〕	〔用法・用量〕
胃潰瘍	通常、成人には1回レバミピドとして100mg（ムコスタ錠100mg：1錠、ムコスタ顆粒20%：0.5g）を1日3回、朝、夕及び就寝前に経口投与する。
下記疾患の胃粘膜病変（びらん、出血、発赤、浮腫）の改善 急性胃炎、慢性胃炎の急性増悪期	通常、成人には1回レバミピドとして100mg（ムコスタ錠100mg：1錠、ムコスタ顆粒20%：0.5g）を1日3回経口投与する。

〔使用上の注意〕—抜粋—

副作用

調査症例10,047例中54例（0.54%）に臨床検査値の異常を含む副作用が認められている。このうち65歳以上の高齢者3,035例では18例（0.59%）に副作用がみられた。副作用発現率、副作用の種類においても高齢者と非高齢者で差は認められなかった。（ムコスタ錠100の承認時及び再審査終了時）

以下の副作用には別途市販後に報告された自発報告を含む。

重大な副作用

1. ショック、アナフィラキシー様症状（頻度不明\*）：ショック、アナフィラキシー様症状があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
2. 白血球減少（0.1%未満）、血小板減少（頻度不明\*）：白血球減少、血小板減少があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
3. 肝機能障害（0.1%未満）、黄疸（頻度不明\*）：AST（GOT）、ALT（GPT）、γ-GTP、ALPの上昇等を伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

\*：自発報告において認められた副作用のため頻度不明。

◇その他の使用上の注意等は、添付文書をご参照ください。

（'12.06作成）

製造販売元  
**大塚製薬株式会社**  
 Otsuka 東京都千代田区神田司町2-9

資料請求先  
**大塚製薬株式会社 医薬情報センター**  
 〒108-8242 東京都港区港南2-16-4  
 品川グラントセントラルタワー

## カプセル内視鏡の話題～小腸、大腸カプセル～

弘前大学大学院医学研究科 消化器血液内科学講座 福田 眞作

山本博徳教授（自治医科大学消化器内科）が開発したダブルバルーン内視鏡が市販されたのが2003年。2007年には超小型カメラを内蔵したカプセル型の内視鏡を口から飲み込んで行う夢の小腸カプセル内視鏡検査が我が国に導入された。21世紀の初頭に、小腸の診断学がこれほど飛躍すると誰が予想しただろうか。この二つの内視鏡の登場によって、小腸の多くの疾患を内視鏡によって直接観察し診断することが可能となった。

ここでは、小腸カプセル内視鏡そして2014年に米国より先に保険適応となった大腸カプセル内視鏡の話題について述べる。

## 適応広がる小腸カプセル内視鏡

小腸カプセル内視鏡が実用化された当初は、便潜血反応陽性、黒色便、下血などの消化管出血のある患者で、従来の検査法である胃内視鏡検査や大腸内視鏡検査を行っても出血の原因がわからない「原因不明の消化管出血」だけが小腸カプセル内視鏡検査の適応であった。そのため胃内視鏡検査や大腸内視鏡検査を行わずにはじめからカプセル内視鏡を行うことはできず、また、クローン病などの狭窄や通過障害が疑われる小腸疾患に対しても、カプセル内視鏡は禁忌であった。

2012年7月に体内で崩壊するダミーカプセル（バンテシーカプセル）による開通性評価が保険適用となったことで、カプセル内視鏡の適応は大幅に拡大された。開通性の評価ができれば小腸疾患全般に対して小腸カプセル内視鏡検査が可能となり、種々の小腸疾患の診断、クローン病やNSAIDs小腸潰瘍などの治療効果判定検査法としても使用されてきている。また、今年添付文書の警告欄にあった年齢に関する記述が削除され、小児や高齢者に対しても使いやすくなっている。このように適応が拡大され、年齢制限が撤廃されたことで、小腸カプセルの使用頻度は今後も確実に増え続けると思われる。

## 新たなカプセル～大腸用カプセル内視鏡

通常の大腸内視鏡検査は、「怖い」「痛い」「苦しい」、また特に女性では「恥ずかしい」といったイメージがあり、検査を敬遠する患者はいまだ少なくない。そこで登場してきたのが「大腸用」カプセルである。大腸カプセルはカメラを前後に2つ搭載しており、小腸カプセルに比べると若干大きい。もちろん、麻酔の必要はなく、精神的・身体的負担は極めて少ないが、通常の大腸内視鏡のように検査中に残渣を吸引することはできないため、より厳密な前処置が必要であり、拘束時間が小腸カプセルに比べると長い。

大腸カプセル内視鏡検査の最大の目的は大腸がんの拾い上げであり、大腸がん検診（便潜血陽性）の精密検査、あるいは血便や便秘などで大腸疾患が疑われる患者が対象となる。ただし、すべての患者が保険診療で大腸カプセル検査を受けられるわけではなく、保険診療上は次のような制限があり、注意が必要である。(1) 一度通常の大腸内視鏡検査を行ったけれども腸管癒着などにより最深部（盲腸）までスコープが挿入できず、大腸

全体を観察できなかった方、(2) 腹部の手術歴があるなどスコープの挿入が困難と判断された方が適応となる。大腸内視鏡検査が全国隅々まで普及している我が国では、前処置の煩雑さやこの適応制限によって、小腸カプセルに比べると全国的な普及率はかなり低い。

## カプセル内視鏡の課題

カプセル内視鏡検査は、患者には優しい検査ではある一方で、医師への負担は少なくない。検査画像の読影にはある程度の時間が要し、画像から診断を下すにも一定の経験が求められる。慣れた医師でも小腸カプセルの場合40～50分、カメラが二つある大腸カプセルセルでは読影に約2倍の時間を要する。また、診療報酬上、大腸カプセル内視鏡検査の保険点数は1550点（全大腸内視鏡検査と同じ点数）、小腸カプセル内視鏡検査は1700点である。通常の大腸内視鏡検査は観察時間が10～20分なのに対して、大腸カプセル内視鏡検査は撮像が1日掛かりな上に、読影に長時間を要するにもかかわらず保険点数はあまりにも低く設定されている。そのため、今もって導入に消極的な施設があるのが現状である。2016年度診療報酬改定で低い保険点数の見直しを求めべく、3学会（日本消化器内視鏡学会、日本消化管学会、日本カプセル内視鏡学会）合同で要望書を提出しているが、医療費抑制の逆風の中でその実現性はかなり厳しいように思われる。医師の読影負担の軽減策については、日本カプセル内視鏡学会によるカプセル内視鏡読影支援技師制度が平成25年4月からスタートしている。技師が読影に参画することによって、医師の読影の負担が軽減されるものと期待したい。

## カプセル内視鏡の将来展望

内視鏡診断学に飛躍的な進歩をもたらしたカプセル内視鏡であるが、すでに次世代カプセルの開発が進められている。通常の内視鏡と同等の機能を有するカプセルの誕生には様々な技術開発が必要である。自走式カプセル、全消化管観察可能なカプセルや治療用カプセルなど、まだまだ開発には時間を要すると思われるが、決して「夢」ではないと信じていたい。



**Go for It!**  
消化器疾患領域のトップランナー

難治性ディスペプシア (FD) 治療薬 保険適応  
**アコファイド錠 100mg**  
プロキプラミド塩酸水和物錠 処方箋医薬品  
(注意—医師等の処方により使用すること)

H<sub>2</sub>受容体拮抗薬 保険適応  
**アシノン錠 75mg / 150mg**  
ニザチン錠 錠剤

難治性大腸炎治療薬 保険適応  
**アサコール錠 400mg**  
メサラジン錠 処方箋医薬品  
(注意—医師等の処方により使用すること)

経口腸管洗浄剤 保険適応  
**ビシクリア 配合錠**  
処方箋医薬品 (注意—医師等の処方により使用すること)

難治性有痛性潰瘍治療薬 保険適応  
**プロマック錠 75mg / 150mg**  
ボラフレリンク口内錠 錠剤

便秘治療薬 保険適応  
**新レミカルボン坐剤**  
塩酸水ナトリウム・無水リン酸二水ナトリウム配合剤

「効能・効果」、「用法・用量」、「警告・禁忌を含む使用上の注意」、「用法・用量に関連する使用上の注意」等については、製品添付文書をご参照ください。

〒103-8351 東京都中央区日本橋小舟町10-11  
**ゼリア新薬工業株式会社**  
TEL 03(3661) 0277

2014年10月作成

# 学術的トピックス

## 大腸cT1b癌 (SM高度浸潤癌) に対する摘除生検としてのEMR/ESDの可能性

広島大学大学院 医歯薬保健学研究所 内視鏡医学 田中 信治

大腸の粘膜内癌 (Tis癌) は転移しないため局所の完全摘除で根治可能である。最近、ESDを施行されたpTis癌が経過観察中に浸潤癌～進行癌として局所再発したという症例報告が学会や研究会で散見されている。ESD後の潰瘍底にTis癌がimplantationした可能性があるのではないかと考察されているが真偽の程は定かでない。症例を集積し癌の組織学的異型度や切り出しの問題を含めた詳細な解析が必要であるが、分化型の大腸Tis癌がESD後の潰瘍底にimplantationする可能性は低いという意見もある。これまで、多くの大腸Tis癌が一括切除・分割切除を含めて内視鏡的に切除されてきたし、切除潰瘍底に接することも多かったと思われるが過去にこのような報告はほとんど無い。大腸癌研究会のプロジェクト研究で明らかにされているように、大腸T1癌の約3%は非連続浸潤を呈する事が明らかになっており、非連続浸潤した癌巣が粘膜下層剥離術中にburning effectで内視鏡的摘除標本に含まれていない可能性も十分考えられる。すなわち、脈管侵襲陽性あるいは非連続浸潤したSM (T1) 癌が、pTis癌と誤認されている可能性があるのである。いずれにしても推測の域を出ない話であり、今後何らかの科学的な方法で真実を明らかにしていく必要がある。大腸ESDにおける剥離深度は極めて重要で、十分な粘膜下層が標本に含まれるよう手技の精度管理が必要である。粘膜下層が十分含まれていないESD標本でのpTis癌は、大腸はもとより食道・胃においても常にT1癌の可能性が否定できないことを十分認識しておく必要がある。

一方、摘除病変がpT1 (SM) 癌であった場合は約10%にリンパ節転移を認めるため、内視鏡治療後の追加治療が必要か否かを判定する必要がある。大腸癌治療ガイドライン2014におけるpT1癌の治療方針は図のごとくである。

経過観察可能群からはずれた (\*) の中の4つの条件を認めた場合、(\*) の中の条件をひとつでも認めれば追加治療としてリンパ節郭清を伴う腸切除を行うべきであると記載されているわけではない。i) 脈管侵襲陽性、ii) 低分化腺癌、印環細胞癌、粘液癌、iii) 浸潤先進部の簇出 (budding) grade 2/3のひとつでも認めた場合は、リンパ節転移のリスクが高いため追加手術を行うべきであると考えられるが、1,000  $\mu$ m 以深浸潤例 (T1b癌) のすべてが追加手術の絶対適応になるわけではない。T1b癌であっても約9割の症例はリンパ節転移がなく、SM浸潤度以外のリンパ節転移危険因子、個々の患者の年齢、活動性、併存疾患、本人の意思などの身体的・社会的背景、手術のリスク、術後のQOLなどを十分に考慮したうえで追加治療の適応を決定する。特に下部直腸の病変に対するMiles手術の術後は性機能や排便排尿障害などの問題点もあるし、ISRで肛門が温存されても排便機能障害の問題が残るため十分な患者に対する説明が重要になる。実際、大腸癌研究会のデータによると、現状では、約10%にしかリンパ節転移を来さない大腸

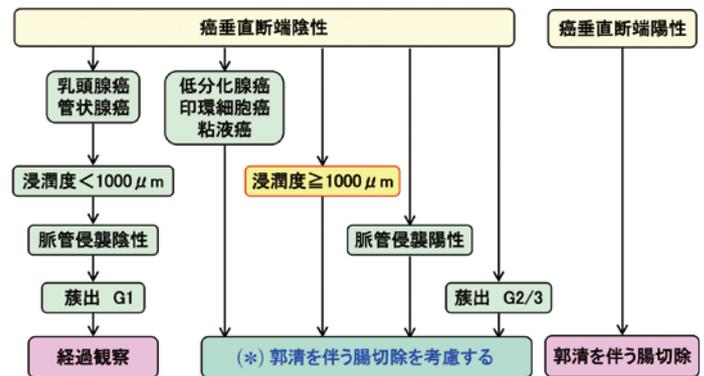


図 内視鏡的摘除pT1(SM)癌の治療方針 (大腸癌治療ガイドライン-医師用2014年版)

T1癌の約70%に外科手術が施行されており、不要な外科手術を減じる事の必要性が指摘されている。

近年の症例の集積に基づいた研究によって、内視鏡的摘除pT1b癌のリンパ節転移リスクの層別化が可能になってきた。Nakadoiら、味岡ら (大腸癌研究会プロジェクト研究) によると、i) 脈管侵襲陽性、ii) 低分化腺癌、印環細胞癌、粘液癌、iii) 浸潤先進部の簇出 (budding) grade 2/3の条件を認めなければ、SM浸潤度にかかわらず大腸pT1癌のリンパ節転移率は1.2～1.4%程度である。同様の報告が予後の解析からもなされている。また、日本消化器外科学会のアンケート報告によると大腸手術による術死リスクも1%未満ではあるがゼロではない。そして、大腸T1癌に対して最初からリンパ節廓清を伴う外科手術を施行したとしてもその再発率は2.3%と報告されている。このように、大腸T1癌は外科手術でも100%根治できるのではないという事実、術死や合併症を含めた外科手術のリスク、患者個人の意思やQOLを十分に考慮したうえで外科手術を追加するかどうかを決定すべきである。

高齢化社会を迎えた現在、実際に追加手術を施行しない大腸T1b癌症例も増加傾向にあり、大腸T1b癌に対する内視鏡的完全摘除生検としてのEMR/ESDの可能性が学会で熱く議論されている。時間を要するとは思われるが、将来は確実にその方向に向かうものと推察される。ただし、適応病変判定のための術前診断学、その内視鏡的切除技術、摘除pT1癌の病理診断などの精度管理や内視鏡的摘除pT1b癌非追加手術例の長期予後に関するエビデンスなどがまだまだしっかりしておらず、現時点では、先進施設での臨床研究の段階である。なお、大腸T1b癌治療後の長期予後に関するエビデンス構築のための全国多施設前向き研究が走り始めている。転移を予測する新たなバイオマーカーの開発を含めた今後の研究の発展などにより、多くのT1癌がEMR/ESDによる完全摘除生検で切除され、その標本の評価によって転移リスクが層別化され、個々の患者に最適な治療が提供できる日は遠くはない。

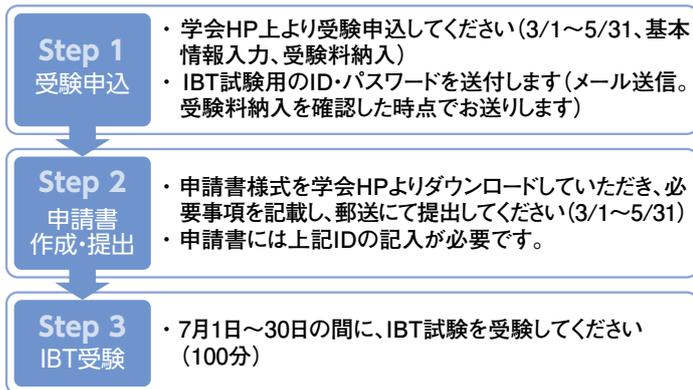
# 胃腸科専門医制度と今後のスケジュールについて

## 1. 暫定処置による専門医から正規専門医への移行手続きについて

平成25（2013）年～平成27（2015）年度に「日本消化管学会暫定処置による胃腸科専門医」を取得された先生方は、平成28（2016）、29（2017）年の2年間で、暫定専門医から正規専門医への移行試験を受けていただき、合格することで正規専門医への移行が完了します。対象の先生方は、下記をご確認の上、お手続きをお願い致します。

### 1. 手続きの流れ

（平成28（2016）年、平成29（2017）年同じスケジュール）



10月以降結果をホームページに開示します。合格者には認定証を送付します。

2. 申請資格：平成25（2013）～平成27（2015）年度に暫定専門医を取得していること。
3. 申請期間：平成28（2016）年、平成29（2017）年いずれも3月1日～5月31日  
学会ホームページ上で受験申込・受験料納入後、申請書類をダウンロードして、期日までに郵送にて提出。
4. 提出書類：申請書（4枚組）
5. 受験料：10,000円（学会ホームページから受験申込登録完了後、受験料納入画面でお支払いいただけます）  
\*合格時の認定料は不要です
6. 注意事項
  - ・平成28（2016）年、平成29（2017）年のいずれで受験していただいても結構です。平成28（2016）年に不合格の場合、平成29（2017）年で再受験は可能です。
  - ・今回の移行試験は暫定専門医認定証番号をお持ちの方がみが受験可能です。ご注意ください。
  - ・申請書類はホームページからダウンロードいただき、申請までに年会費の納入をお済ませください（入金情報のデータベース反映に数日かかりますので予めご了承ください）。
  - ・IBT試験受験用のID、パスワードは、受験料納入確認メールにて付与し、申請書にもIDをご記入いただけます。送付されたメールは紛失されないようご注意ください。
  - ・申請期限内に必要な書類の提出が確認できない場合には、受験用ID・パスワードは有効になりませんので、申請書は必ずご提出ください。なお、ID、パスワードは受験期間外には使用できませんのでご注意ください。

## 2. 暫定指導医から正規指導医への移行手続きについて

資格取得後5年終了時に申請書類を提出し、委員会の審議により正規指導医の条件を満たせば正式な指導医と認定されます。正規指導医になるには、書類審査のほか、所属施設が指導施設として認定されており、常勤として勤務していることが必須条件になります。

所属施設が指導施設に認定されているかどうかは、p.9～p.12の「暫定処置による指導施設一覧」にてご確認ください。もし、所属施設が指導施設として認定されていない場合は、2016年3月（予定）より、随時暫定処置による指導施設の申請を受け付けますので、ホームページに掲載されている申請書を事務局あてにご提出ください。受理後、担当委員会で審査ののち、年3回開催される理事会（9月、12月、1または2月）のいずれかにて承認の予定です。

## 3. 暫定指導施設から正規指導施設への移行手続きについて

資格取得後5年終了時に申請書類を提出し、委員会の審議により正規指導施設の条件を満たせば正式な指導施設と認定されます。正規指導施設になるには、指導医1名以上が所属することが必須条件になります。もし、暫定指導施設資格を取得後、異動等で指導医が不在になってしまった場合には、速やかに新たな指導医の申請をしてください（最新の指導医一覧はホームページにて確認できます）。

指導医と同様、2016年3月（予定）より、随時暫定処置による指導施設の申請を受け付けることとなり、受理後、担当委員会で審査ののち、年3回開催される理事会（9月、12月、1または2月）のいずれかにて承認の予定です。

なお、指導医不在中は、一時的に施設長が暫定指導施設の代表者となることで資格を継続することができます（原則1年間まで）。指導医の申請も、施設長の代表者就任も不可能な場合には、指導施設の資格を喪失することになりますのでご注意ください。

## 4. その他よくあるご質問

これまでに正規資格への移行手続きに関して寄せられた代表的なご質問を紹介します。

- Q1：暫定専門医を取得するのを失念しました。正規専門医になるにはどうしたらよいですか？**  
→2018年から施行される「胃腸科専門医制度規則」の第3章第8条以下をご確認の上、正規専門医の申請をしてください。
- Q2：認定医資格を更新してきていますが、暫定専門医から正規専門医へ移行できた場合、認定医の資格はどうなりますか？**  
→正規専門医資格と一元化され、以後、認定医の更新は不要です。専門医の更新をすることで認定医の資格も更新できたこととなります。
- Q3：認定医資格も暫定専門医資格もないので、2018年からの正規専門医の申請を考えています。正規専門医を取得できた場合は、認定医資格も取得できたということになりますか？**  
→なりません。認定医の更新を続けてきた暫定専門医が正規専門医に移行できた場合にのみ、専門医の資格に認定医の資格が付帯されます。

## 日本消化管学会 暫定処置による胃腸科指導施設 名簿

平成25～27年度(敬称略、地区別、五十音順)

670施設 2015.11.1現在

No.	施設名称	施設都道府県
1	旭川医科大学附属医院	北海道
2	足寄町国民健康保険病院	北海道
3	一般社団法人日本海員救済会 小樽救済会病院	北海道
4	医療法人 歓生会 豊岡中央病院	北海道
5	医療法人 深仁会 手稲深仁会病院	北海道
6	医療法人 啓和会 黒澤病院	北海道
7	医療法人 五月会 小笠原クリニック札幌病院	北海道
8	医療法人 中島病院	北海道
9	医療法人 社団 太黒胃腸内科病院	北海道
10	医療法人 社団 ほうだ病院	北海道
11	医療法人 徳洲会 札幌東徳洲会病院	北海道
12	医療法人 中島病院	北海道
13	医療法人 豊和会 新札幌豊和会病院	北海道
14	小樽市立病院	北海道
15	公益財団法人 北海道医療団 帯広第一病院	北海道
16	国立病院機構 北海道がんセンター	北海道
17	小林病院	北海道
18	札幌医科大学附属医院	北海道
19	JR札幌病院	北海道
20	JA北海道厚生連 札幌厚生病院	北海道
21	JA北海道厚生連 旭川厚生病院	北海道
22	社会医療法人 北楡会 開成病院	北海道
23	社会医療法人 社団 カレスサポロ 時計台記念病院	北海道
24	社会医療法人 製鉄記念室蘭病院	北海道
25	社会医療法人 北斗 北斗病院	北海道
26	社会医療法人 北楡会 札幌北楡病院	北海道
27	社会福祉法人 函館厚生院 函館五稜郭病院	北海道
28	市立小樽病院	北海道
29	市立釧路総合病院	北海道
30	市立室蘭総合病院	北海道
31	伊達赤十字病院	北海道
32	独立行政法人 国立病院機構 北海道医療センター	北海道
33	独立行政法人 地域医療機能推進機構 北海道病院	北海道
34	浜頓別町国民健康保険病院	北海道
35	北海道医療団 帯広第一病院	北海道
36	北海道消化器科病院	北海道
37	北海道大学病院	北海道
38	留萌市立病院	北海道
39	青森県立中央病院	青森県
40	青森市民病院	青森県
41	つがる西北五広域連合 つがる総合病院	青森県
42	八戸赤十字病院	青森県
43	弘前市立病院	青森県
44	弘前大学医学部附属医院	青森県
45	むつ総合病院	青森県
46	秋田県厚生連 鹿角総合病院	秋田県
47	秋田赤十字病院	秋田県
48	秋田大学医学部附属医院	秋田県
49	医療法人 白雄会 白根病院	秋田県
50	JA秋田厚生連 秋田厚生医療センター	秋田県
51	社会医療法人 明和会 中通総合病院	秋田県
52	医療法人 社団 松誠会 滝沢中央病院	岩手県
53	岩手医科大学附属医院	岩手県
54	岩手県立磐井病院	岩手県
55	岩手県立胆沢病院	岩手県
56	山形大学医学部附属医院	山形県
57	石巻赤十字病院	宮城県
58	大崎市民病院	宮城県
59	気仙沼市立病院	宮城県
60	公立黒川病院	宮城県
61	地方独立行政法人 宮城県立病院機構 宮城県立がんセンター	宮城県
62	東北大学病院	宮城県
63	みやぎ県南中核病院	宮城県
64	一般財団法人 大原総合病院	福島県
65	いわき市立総合磐城共立病院	福島県
66	福島県立医科大学 会津医療センター	福島県
67	福島県立医科大学 附属病院	福島県
68	医療法人 慶友会 守谷慶友病院	茨城県
69	株式会社 日立製作所 日立総合病院	茨城県
70	北茨城市民病院	茨城県
71	小山記念病院	茨城県
72	社会福祉法人 恩賜財団済生会 龍ヶ崎済生会病院	茨城県
73	筑波記念病院	茨城県
74	筑波大学附属医院	茨城県
75	筑波メディカルセンター病院	茨城県
76	東京医科大学 茨城医療センター	茨城県
77	友愛記念病院	茨城県
78	宇都宮東病院	栃木県
79	学校法人 国際医療福祉大学病院	栃木県
80	自治医科大学 附属病院	栃木県
81	社会医療法人 博愛会 菅間記念病院	栃木県
82	社会医療法人 中山会 宇都宮記念病院	栃木県
83	独立行政法人 国立病院機構 宇都宮病院	栃木県
84	独立行政法人 地域医療機能推進機構 うつのみや病院	栃木県

No.	施設名称	施設都道府県
85	獨協医科大学病院	栃木県
86	那須赤十字病院	栃木県
87	伊勢崎市民病院	群馬県
88	医療法人 社団 日高会 日高病院	群馬県
89	医療法人 樹心会 角田病院	群馬県
90	太田記念病院	群馬県
91	群馬県立がんセンター	群馬県
92	群馬大学医学部附属医院	群馬県
93	国立病院機構 高崎総合医療センター	群馬県
94	社会福祉法人 恩賜財団済生会 支部 群馬県済生会 前橋病院	群馬県
95	多野藤岡医療事務市町村組合 公立藤岡総合病院	群馬県
96	地域医療支援病院 群馬県立心臓血管センター	群馬県
97	独立行政法人 地域医療機能推進機構 群馬中央病院	群馬県
98	利根保健生活協同組合 利根中央病院	群馬県
99	日本赤十字社 原町赤十字病院	群馬県
100	上尾中央総合病院	埼玉県
101	医療法人 花仁会 秩父病院	埼玉県
102	医療法人 顕正会 蓮田病院	埼玉県
103	医療法人 社団 協友会 彩の国東大宮メディカルセンター	埼玉県
104	社会医療法人 さいたま市民医療センター	埼玉県
105	医療法人 社団 武蔵野会 新座志木中央総合病院	埼玉県
106	医療法人 ヘブロン会 大宮中央総合病院	埼玉県
107	医療法人 武蔵野総合病院	埼玉県
108	医療法人 社団 清心会 至聖病院	埼玉県
109	川口市立医療センター	埼玉県
110	埼玉医科大学 国際医療センター	埼玉県
111	埼玉医科大学 総合医療センター	埼玉県
112	埼玉医科大学病院	埼玉県
113	埼玉県立がんセンター	埼玉県
114	埼玉成恵会病院	埼玉県
115	さいたま赤十字病院	埼玉県
116	JA埼玉県厚生農業協同組合連合会 熊谷総合病院	埼玉県
117	自治医科大学 附属さいたま医療センター	埼玉県
118	社会医療法人 ジャパンメディカルアライアンス 東埼玉総合病院	埼玉県
119	社会福祉法人 恩賜財団済生会 支部 埼玉県済生会 川口総合病院	埼玉県
120	特定医療法人 同愛会 熊谷外科病院	埼玉県
121	独立行政法人 国立病院機構 西埼玉中央病院	埼玉県
122	独立行政法人 地域医療機能推進機構 埼玉メディカルセンター	埼玉県
123	戸田中央総合病院	埼玉県
124	獨協医科大学 越谷病院	埼玉県
125	日本赤十字社 深谷赤十字病院	埼玉県
126	東川口病院	埼玉県
127	防衛医科大学 学校病院	埼玉県
128	メディカルトピア 草加病院	埼玉県
129	IMSグループ 医療法人 財団 明理会 新松戸中央総合病院	千葉県
130	医療法人 社団 康喜会 辻仲病院 柏の葉	千葉県
131	医療法人 社団 協友会 柏厚生総合病院	千葉県
132	医療法人 社団 圭春会 小張総合病院	千葉県
133	医療法人 社団 普照会 井上記念病院	千葉県
134	医療法人 鉄蕉会 亀田総合病院	千葉県
135	大網白里市立国保大網病院	千葉県
136	キッコーマン総合病院	千葉県
137	国際医療福祉大学 臨床医学研究センター 化学療法研究所 附属病院	千葉県
138	国保旭中央病院	千葉県
139	国保直営総合病院 君津中央病院	千葉県
140	国保松戸市立病院	千葉県
141	国立研究開発法人 国立国際医療研究センター 国府台病院	千葉県
142	社会福祉法人 太陽会 安房地域医療センター	千葉県
143	千葉県がんセンター	千葉県
144	千葉県済生会 習志野病院	千葉県
145	千葉大学医学部 附属病院	千葉県
146	東京歯科大学 市川総合病院	千葉県
147	東京慈恵会医科大学 附属 柏病院	千葉県
148	東邦大学 医療センター 佐倉病院	千葉県
149	地方独立行政法人 さんむ医療センター	千葉県
150	独立行政法人 地域医療機能推進機構 千葉病院	千葉県
151	日本医科大学 千葉北総病院	千葉県
152	IMSグループ 医療法人 社団 明芳会 高島平中央総合病院	東京都
153	板橋区医師会病院	東京都
154	医療法人 社団 悦伝会 目白第二病院	東京都
155	医療法人 社団 恵仁会 府中恵仁会病院	東京都
156	医療法人 社団 松和会 池上総合病院	東京都
157	医療法人 社団 明芳会 板橋中央総合病院	東京都
158	NTT 東日本関東病院	東京都
159	大森赤十字病院	東京都
160	学校法人 北里大学 北里研究所病院	東京都
161	亀有病院	東京都
162	がん研有明病院	東京都
163	杏精会 岡田病院	東京都
164	杏林大学医学部 附属病院	東京都
165	九段坂病院	東京都
166	慶應義塾大学病院	東京都
167	公益財団法人 東京都保健医療公社 東部地域病院	東京都
168	公益財団法人 ライフ・エクステンション 研究所 附属 永寿総合病院	東京都

No.	施設名称	施設都道府県
169	公立阿伎留医療センター	東京都
170	公立昭和病院	東京都
171	国際医療福祉大学三田病院	東京都
172	国立病院機構 災害医療センター	東京都
173	国立病院機構 東京医療センター	東京都
174	国家公務員共済組合連合会 虎の門病院	東京都
175	財団法人日産厚生会 玉川病院	東京都
176	社会医療法人財団仁医会 牧田総合病院	東京都
177	社会医療法人社団慈生会 等潤病院	東京都
178	社会医療法人社団正志会 南町田病院	東京都
179	社会医療法人社団健生会 立川相互病院	東京都
180	社会福祉法人あそか会 あそか病院	東京都
181	順天堂大学病院	東京都
182	順天堂東京江東高齢者医療センター	東京都
183	昭和大学江東豊洲病院	東京都
184	聖路加国際病院	東京都
185	全国土木建築国民健康保険組合 総合病院 厚生中央病院	東京都
186	帝京大学医学部附属病院	東京都
187	東海大学医学部付属東京病院	東京都
188	東海大学医学部付属八王子病院	東京都
189	東急病院	東京都
190	東京医科歯科大学医学部附属病院	東京都
191	東京医科大学八王子医療センター	東京都
192	東京医科大学病院	東京都
193	東京警察病院	東京都
194	東京厚生年金病院	東京都
195	東京慈恵会医科大学葛飾医療センター	東京都
196	東京慈恵会医科大学附属第三病院	東京都
197	東京慈恵会医科大学附属病院	東京都
198	東京女子医科大学病院	東京都
199	東京大学医学部附属病棟	東京都
200	東京都がん検診センター	東京都
201	東京都済生会中央病院	東京都
202	東京都同胞援護会 昭島病院	東京都
203	東京都立多摩総合医療センター	東京都
204	東京都立広尾病院	東京都
205	東京都立墨東病院	東京都
206	東芝病院	東京都
207	東邦大学医療センター大森病院	東京都
208	特定医療法人大坪会 東和病院	東京都
209	独立行政法人労働者健康福祉機構 東京労災病院	東京都
210	独立行政法人 国立成育医療研究センター	東京都
211	独立行政法人国立がん研究センター中央病院	東京都
212	独立行政法人地域医療機能推進機構 東京山手メディカルセンター	東京都
213	日本医科大学附属病院	東京都
214	日本医科大学多摩永山病院	東京都
215	日本私立学校振興・共済事業団 東京臨海病院	東京都
216	日本大学医学部附属板橋病院	東京都
217	日本大学病院	東京都
218	八王子消化器病院	東京都
219	東大和病院	東京都
220	町田市民病院	東京都
221	三井記念病院	東京都
222	明理会中央総合病院	東京都
223	緑秀会 田無病院	東京都
224	厚木市立病院	神奈川県
225	一般財団法人神奈川県警友会けいゆう病院	神奈川県
226	一般社団法人日本厚生団 長津田厚生総合病院	神奈川県
227	医療法人社団こうかん会 日本鋼管病院	神奈川県
228	医療法人沖繩徳洲会 湘南鎌倉総合病院	神奈川県
229	医療法人社団康心会 湘南東部総合病院	神奈川県
230	医療法人社団聖仁会 横浜聖生病院	神奈川県
231	医療法人社団明芳会 横浜旭中央総合病院	神奈川県
232	医療法人社団緑成会横浜総合病院	神奈川県
233	医療法人仁愛会 近藤病院	神奈川県
234	医療法人尽誠会 山近記念総合病院	神奈川県
235	医療法人徳洲会 大和徳洲会病院	神奈川県
236	医療法人横浜博明会 西横浜国際総合病院	神奈川県
237	恩賜財団 済生会横浜市東部病院	神奈川県
238	川崎市立川崎病院	神奈川県
239	川崎市立多摩病院	神奈川県
240	関東労災病院	神奈川県
241	北里大学病院	神奈川県
242	国家公務員共済組合連合会 横須賀共済病院	神奈川県
243	国家公務員共済組合連合会 横浜南共済病院	神奈川県
244	国家公務員共済組合連合会 平塚共済病院	神奈川県
245	JA神奈川県厚生連 伊勢原協同病院	神奈川県
246	JA神奈川県厚生連 相模原協同病院	神奈川県
247	社会医療法人財団 石心会 川崎幸病院	神奈川県
248	社会医療法人財団 互恵会 大船中央病院	神奈川県
249	社会医療法人ジャパンメディカルアライアンス 海老名総合病院	神奈川県
250	社会福祉法人恩賜財団済生会 横浜市南部病院	神奈川県
251	社会福祉法人聖隷福祉事業団 聖隷横浜病院	神奈川県
252	昭和大学藤が丘病院	神奈川県

No.	施設名称	施設都道府県
253	昭和大学横浜市北部病院	神奈川県
254	新百合ヶ丘総合病院	神奈川県
255	聖マリアンナ医科大学 東横病院	神奈川県
256	聖マリアンナ医科大学病院	神奈川県
257	茅ヶ崎市立病院	神奈川県
258	地方独立行政法人 神奈川県立病院機構 神奈川県立がんセンター	神奈川県
259	東海大学医学部付属大磯病院	神奈川県
260	東海大学医学部付属病院	神奈川県
261	東芝林間病院 消化器内視鏡センター	神奈川県
262	特定医療法人沖繩徳洲会 湘南厚木病院	神奈川県
263	独立行政法人地域医療機能推進機構 相模野病院	神奈川県
264	独立行政法人労働者健康福祉機構 横浜労災病院	神奈川県
265	日本医科大学武蔵小杉病院	神奈川県
266	日本医療伝道会総合病院 衣笠病院	神奈川県
267	平塚市民病院	神奈川県
268	三浦市立病院	神奈川県
269	大和市立病院	神奈川県
270	横浜市立市民病院	神奈川県
271	横浜市立大学附属市民総合医療センター	神奈川県
272	横浜市立大学附属病院	神奈川県
273	横浜市立みなと赤十字病院	神奈川県
274	一般財団法人 富士温泉病院	山梨県
275	山梨大学医学部附属病院	山梨県
276	安曇野赤十字病院	長野県
277	医療法人社団 公仁会 前澤病院	長野県
278	健和会病院	長野県
279	JA長野厚生連 篠ノ井総合病院	長野県
280	信州大学医学部附属病院	長野県
281	地方独立行政法人長野県立病院機構長野県立須坂病院	長野県
282	長野県厚生農業協同組合連合会佐久総合病院 佐久医療センター	長野県
283	長野市民病院	長野県
284	日本赤十字社 諏訪赤十字病院	長野県
285	医療法人立川メディカルセンター 立川総合病院	新潟県
286	医療法人新潟臨港保健会 新潟臨港病院	新潟県
287	下越病院	新潟県
288	社会福祉法人恩賜財団済生会支部 新潟県済生会三条病院	新潟県
289	独立行政法人労働者健康福祉機構 新潟労災病院	新潟県
290	新潟県立がんセンター新潟病院	新潟県
291	新潟県立中央病院	新潟県
292	新潟大学医歯学総合病院	新潟県
293	医療法人社団 健育会 熱川温泉病院	静岡県
294	医療法人社団康心会 伊豆東部総合病院	静岡県
295	磐田市立総合病院	静岡県
296	共立蒲原総合病院組合 共立蒲原総合病院	静岡県
297	JA静岡厚生連 遠州病院	静岡県
298	静岡県立静岡がんセンター	静岡県
299	静岡市立静岡病院	静岡県
300	順天堂大学医学部附属静岡病院	静岡県
301	市立島田市民病院	静岡県
302	聖隷浜松病院	静岡県
303	聖隷三方原病院	静岡県
304	特定医療法人沖繩徳洲会 静岡徳洲会病院	静岡県
305	独立行政法人国立病院機構静岡医療センター	静岡県
306	日本赤十字社 浜松赤十字病院	静岡県
307	浜松医科大学医学部附属病院	静岡県
308	浜松医療センター	静岡県
309	浜松南病院	静岡県
310	藤枝市立総合病院	静岡県
311	富士市立中央病院	静岡県
312	愛知医科大学病院	愛知県
313	愛知県がんセンター中央病院	愛知県
314	愛知県厚生農業協同組合連合会 知多厚生病院	愛知県
315	一宮市立市民病院	愛知県
316	医療法人 横山胃腸科病院	愛知県
317	医療法人仁心会 さくら総合病院	愛知県
318	医療法人偕行会 名古屋共立病院	愛知県
319	医療法人大医会日進おりど病院	愛知県
320	医療法人徳洲会 名古屋徳洲会総合病院	愛知県
321	医療法人名古屋記念財団 名古屋記念病院	愛知県
322	春日井市民病院	愛知県
323	学校法人藤田学園 藤田保健衛生大学病院	愛知県
324	刈谷豊田総合病院	愛知県
325	国家公務員共済組合連合会 名城病院	愛知県
326	社会医療法人財団新和会 八千代病院	愛知県
327	社会医療法人明陽会 成田記念病院	愛知県
328	独立行政法人地域医療機能推進機構 中京病院	愛知県
329	津島市民病院	愛知県
330	独立行政法人国立病院機構 名古屋医療センター	愛知県
331	トヨタ記念病院	愛知県
332	名古屋市立西部医療センター	愛知県
333	名古屋市立大学病院	愛知県
334	名古屋市立東部医療センター	愛知県
335	名古屋セントラル病院	愛知県
336	名古屋大学医学部附属病院	愛知県

No.	施設名称	施設都道府県
337	日本赤十字社 名古屋第二赤十字病院	愛知県
338	やまね病院	愛知県
339	医療法人徳洲会 大垣徳洲会病院	岐阜県
340	岐阜県総合医療センター	岐阜県
341	岐阜県立多治見病院	岐阜県
342	岐阜市民病院	岐阜県
343	岐阜赤十字病院	岐阜県
344	岐阜大学医学部附属病院	岐阜県
345	公立学校共済組合 東海中央病院	岐阜県
346	富山市立富山市市民病院	富山県
347	富山大学附属病院	富山県
348	石川県立中央病院	石川県
349	医療社団法人浅ノ川 浅ノ川総合病院	石川県
350	医療法人社団博友会 金沢西病院	石川県
351	金沢医科大学病院	石川県
352	金沢市立病院	石川県
353	金沢赤十字病院	石川県
354	公立能登総合病院	石川県
355	国立大学法人 金沢大学附属病院	石川県
356	国立病院機構 金沢医療センター	石川県
357	市立輪島病院	石川県
358	医療法人至捷会 木村病院	福井県
359	公立丹南病院	福井県
360	福井県立病院	福井県
361	福井大学医学部附属病院	福井県
362	近江八幡市立総合医療センター	滋賀県
363	大津市民病院	滋賀県
364	国立大学法人 滋賀医科大学医学部附属病院	滋賀県
365	国立病院機構東近江総合医療センター	滋賀県
366	社会福祉法人恩賜財団 済生会滋賀県病院	滋賀県
367	独立行政法人地域医療機能推進機構滋賀病院	滋賀県
368	伊勢赤十字病院	三重県
369	孤野厚生病院	三重県
370	済生会松阪総合病院	三重県
371	市立四日市病院	三重県
372	鈴鹿中央総合病院	三重県
373	地方独立行政法人三重県立総合医療センター	三重県
374	松阪中央総合病院	三重県
375	三重大学病院	三重県
376	四日市社会保険病院	三重県
377	宇陀市立病院	奈良県
378	近畿大学医学部奈良病院	奈良県
379	医療法人健全会土庫病院 奈良大腸肛門病センター	奈良県
380	市立奈良病院	奈良県
381	奈良県立医科大学附属病院	奈良県
382	社会医療法人博寿会 山本病院	和歌山県
383	和歌山県立医科大学附属病院	和歌山県
384	綾部市立病院	京都府
385	一般社団法人愛生会 愛生会山科病院	京都府
386	医療法人財団康生会 武田病院	京都府
387	医療法人同仁会 京都九条病院	京都府
388	医療法人医仁会 武田総合病院	京都府
389	京都きつ川病院	京都府
390	京都鞍馬口医療センター	京都府
391	京都警察病院	京都府
392	京都第一赤十字病院	京都府
393	京都大学医学部附属病院	京都府
394	京都府立医科大学附属北部医療センター	京都府
395	京都府立医科大学附属病院	京都府
396	京都山城総合医療センター	京都府
397	公立南丹病院	京都府
398	社会福祉法人京都社会事業財団 西陣病院	京都府
399	社会福祉法人京都社会事業財団 京都桂病院	京都府
400	市立福知山市市民病院	京都府
401	独立行政法人国立病院機構 舞鶴医療センター	京都府
402	洛和会ヘルスケアシステム 洛和会音羽病院	京都府
403	浅香山病院	京都府
404	生駒市立病院	大阪府
405	泉大津市立病院	大阪府
406	今里胃腸病院	大阪府
407	医療法人医誠会 城東中央病院	大阪府
408	医療法人医誠会 医誠会病院	大阪府
409	医療法人彩樹 守口敬任会病院	大阪府
410	医療法人春秋会 城山病院	大阪府
411	医療法人仙養会 北摂総合病院	大阪府
412	医療法人橘会 東住吉森本病院	大阪府
413	医療法人寺西報恩会 長吉総合病院	大阪府
414	医療法人道仁会 道仁病院	大阪府
415	医療法人東和会 第一東和会病院	大阪府
416	医療法人徳洲会 八尾徳洲会総合病院	大阪府
417	大阪医科大学附属病院	大阪府
418	大阪掖済会病院	大阪府
419	大阪回生病院	大阪府
420	大阪北通信病院	大阪府

No.	施設名称	施設都道府県
421	大阪警察病院	大阪府
422	大阪市立総合医療センター	大阪府
423	大阪市立大学医学部附属病院	大阪府
424	大阪鉄道病院	大阪府
425	大阪府済生会泉尾病院	大阪府
426	大阪府済生会中津病院	大阪府
427	大阪みなと中央病院	大阪府
428	大阪労災病院	大阪府
429	関西医科大学附属滝井病院	大阪府
430	関西医科大学附属枚方病院	大阪府
431	岸和田徳洲会病院	大阪府
432	北大阪警察病院	大阪府
433	北野病院	大阪府
434	近畿大学医学部堺病院	大阪府
435	近畿大学医学部附属病院	大阪府
436	国立病院機構 大阪南医療センター	大阪府
437	国家公務員共済組合連合会 枚方公済病院	大阪府
438	国家公務員共済組合連合会 大手前病院	大阪府
439	社会医療法人医真会 八尾総合病院	大阪府
440	社会医療法人ベガサス馬場記念病院	大阪府
441	社会医療法人垣谷会 明治橋病院	大阪府
442	社会医療法人きつこう会 多根総合病院	大阪府
443	社会医療法人協和会 加納総合病院	大阪府
444	社会医療法人景岳会 南大阪病院	大阪府
445	社会医療法人寿楽会 大野記念病院	大阪府
446	社会医療法人信愛会 新生病院	大阪府
447	社会医療法人若弘会 若草第一病院	大阪府
448	社会福祉法人石井記念愛染園附属愛染橋病院	大阪府
449	社会福祉法人 大阪院明館病院	大阪府
450	社会福祉法人恩賜財団済生会支部大阪府済生会 富田林病院	大阪府
451	社会福祉法人四天王寺福祉事業団 四天王寺病院	大阪府
452	市立池田病院	大阪府
453	市立貝塚病院	大阪府
454	市立柏原病院	大阪府
455	市立岸和田市民病院	大阪府
456	堺市立総合医療センター	大阪府
457	市立豊中病院	大阪府
458	市立ひらかた病院	大阪府
459	市立藤井寺市民病院	大阪府
460	正幸会病院	大阪府
461	囃生会脳神経外科病院	大阪府
462	特定医療法人三和会永山病院	大阪府
463	独立行政法人地域医療機能推進機構 大阪病院	大阪府
464	地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪府立成人病センター	大阪府
465	独立行政法人国立病院機構 大阪医療センター	大阪府
466	独立行政法人 市立吹田市民病院	大阪府
467	なにわ生野病院	大阪府
468	日本赤十字社 大阪赤十字病院	大阪府
469	東大阪市立総合病院	大阪府
470	府中病院	大阪府
471	宝生会PL病院	大阪府
472	星ヶ丘厚生年金病院	大阪府
473	赤穂市民病院	兵庫県
474	一般財団法人甲南会 甲南病院	兵庫県
475	医療法人芙蓉会 姫路愛和病院	兵庫県
476	医療法人川崎病院	兵庫県
477	医療法人薫風会 佐野病院	兵庫県
478	医療法人社団仁恵会 石井病院	兵庫県
479	医療法人社団つかさ会 尾原病院	兵庫県
480	社会医療法人 明石医療センター	兵庫県
481	医療法人社団順心会 順心病院	兵庫県
482	医療法人社団関田会 ときわ病院	兵庫県
483	医療法人社団朋優会 三木山陽病院	兵庫県
484	医療法人社団網島会 厚生病院	兵庫県
485	医療法人 明和病院	兵庫県
486	神戸市立医療センター中央市民病院	兵庫県
487	神戸大学医学部附属病院	兵庫県
488	公立学校共済組合近畿中央病院	兵庫県
489	三田市民病院	兵庫県
490	社会医療法人神鋼記念会 神鋼記念病院	兵庫県
491	社会医療法人 製鉄記念広畑病院	兵庫県
492	市立芦屋病院	兵庫県
493	市立伊丹病院	兵庫県
494	市立川西病院	兵庫県
495	宝塚市立病院	兵庫県
496	特定医療法人社団仙齡会 はりま病院	兵庫県
497	特定医療法人誠仁会 大久保病院	兵庫県
498	特定医療法人三栄会 ツカザキ病院	兵庫県
499	独立行政法人国立病院機構 兵庫中央病院	兵庫県
500	独立行政法人国立病院機構 神戸医療センター	兵庫県
501	独立行政法人労働者健康福祉機構 関西労災病院	兵庫県
502	西宮市立中央病院	兵庫県
503	姫路聖マリア病院	兵庫県
504	兵庫医科大学附属病院	兵庫県

No.	施設名称	施設都道府県
505	兵庫県立柏原病院	兵庫県
506	兵庫県立加古川医療センター	兵庫県
507	兵庫県立がんセンター	兵庫県
508	六甲アイランド甲南病院	兵庫県
509	特定医療法人財団同愛会 博愛病院	鳥取県
510	独立行政法人労働者健康福祉機構 山陰労災病院	鳥取県
511	鳥取県立中央病院	鳥取県
512	鳥取市立病院	鳥取県
513	鳥取生協病院	鳥取県
514	鳥取大学医学部附属病院	鳥取県
515	島根県済生会江津総合病院	島根県
516	島根県立中央病院	島根県
517	島根大学医学部附属病院	島根県
518	松江市立病院	島根県
519	松江赤十字病院	島根県
520	一般財団法人倉敷成人病センター	岡山県
521	岡山赤十字病院	岡山県
522	岡山大学病院	岡山県
523	川崎医科大学病院	岡山県
524	川崎医科大学附属川崎病院	岡山県
525	公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院	岡山県
526	心臓病センター榊原病院	岡山県
527	地域医療支援病院 赤磐医師会病院	岡山県
528	地方独立行政法人 岡山市立総合医療センター岡山市立市民病院	岡山県
529	独立行政法人国立病院機構 岡山医療センター	岡山県
530	独立行政法人労働者健康福祉機構 岡山ろうさい病院	岡山県
531	医療法人杏仁会 松尾内科病院	広島県
532	医療法人社団 日本鋼管福山病院	広島県
533	恩賜財団済生会呉病院	広島県
534	木村胃腸科病院	広島県
535	呉市医師会病院	広島県
536	県立安芸津病院	広島県
537	公立学校共済組合中国中央病院	広島県
538	国家公務員共済組合連合会 呉共済病院	広島県
539	国家公務員共済組合連合会 広島記念病院	広島県
540	広島鉄道病院	広島県
541	庄原赤十字病院	広島県
542	市立三次中央病院	広島県
543	地方独立行政法人広島市立病院機構 広島市立安佐市民病院	広島県
544	地方独立行政法人広島市立病院機構 広島市立広島市民病院	広島県
545	独立行政法人 国立病院機構 福山医療センター	広島県
546	独立行政法人国立病院機構呉医療センター・中国がんセンター	広島県
547	独立行政法人労働者健康福祉機構 中国労災病院	広島県
548	東広島医療センター	広島県
549	広島医療生活協同組合 広島共立病院	広島県
550	広島県厚生農業協同組合連合会 尾道総合病院	広島県
551	広島赤十字・原爆病院	広島県
552	広島大学病院	広島県
553	広島通信病院	広島県
554	下関市立豊浦病院	山口県
555	独立行政法人地域医療機能推進機構 徳山中央病院	山口県
556	山口大学医学部附属病院	山口県
557	香川県厚生農業協同組合連合会 屋島総合病院	香川県
558	香川県済生会病院	香川県
559	香川県立中央病院	香川県
560	香川大学医学部附属病院	香川県
561	国家公務員共済組合連合会 KKR高松病院	香川県
562	さぬき市民病院	香川県
563	聖マルチン病院	香川県
564	高松市民病院	香川県
565	三豊総合病院	香川県
566	地方独立行政法人 徳島県鳴門病院	徳島県
567	徳島市民病院	徳島県
568	徳島赤十字病院	徳島県
569	徳島大学病院	徳島県
570	独立行政法人国立病院機構 東徳島医療センター	徳島県
571	高知大学医学部附属病院	高知県
572	社会医療法人近森会近森病院	高知県
573	独立行政法人国立病院機構高知病院	高知県
574	医療福祉法人恩賜財団 済生会松山病院	愛媛県
575	愛媛県立中央病院	愛媛県
576	愛媛大学医学部附属病院	愛媛県
577	社会医療法人生きる会 瀬戸内海病院	愛媛県
578	社会福祉法人恩賜財団 済生会今治病院	愛媛県
579	市立宇和島病院	愛媛県
580	松山赤十字病院	愛媛県
581	一般財団法人医療・介護・教育研究財団 柳川病院	福岡県
582	一般財団法人福岡県社会保険医療協会 社会保険 大年田天領病院	福岡県
583	医療法人愛風会 さく病院	福岡県
584	医療法人医和基会 牧山中央病院	福岡県
585	医療法人 小西第一病院	福岡県
586	医療法人博仁会 福岡リハビリテーション病院	福岡県
587	医療法人友愛会 友田病院	福岡県
588	医療法人社団高邦会 福岡山王病院	福岡県

No.	施設名称	施設都道府県
589	遠賀中間医師会おんが病院	福岡県
590	株式会社麻生 飯塚病院	福岡県
591	北九州市立医療センター	福岡県
592	九州大学病院	福岡県
593	久留米大学医学部附属医療センター	福岡県
594	久留米大学病院	福岡県
595	高邦会 高木病院	福岡県
596	国立病院機構 九州医療センター	福岡県
597	国家公務員共済組合連合会 浜の町病院	福岡県
598	社会医療法人製鉄記念八幡病院	福岡県
599	社会医療法人雪の聖母会 聖マリア病院	福岡県
600	社会福祉法人恩賜財団済生会支部 福岡県済生会福岡総合病院	福岡県
601	社会保険 直方病院	福岡県
602	社会保険福築病院	福岡県
603	田川市立病院	福岡県
604	地域医療機能推進機構 福岡ゆたか中央病院	福岡県
605	独立行政法人国立病院機構 九州がんセンター	福岡県
606	独立行政法人国立病院機構 福岡東医療センター	福岡県
607	独立行政法人労働者健康福祉機構 九州労災病院門司メディカルセンター	福岡県
608	原三信病院	福岡県
609	福岡輝栄会病院	福岡県
610	福岡県済生会 二日市病院	福岡県
611	福岡市医師会成人病センター	福岡県
612	福岡赤十字病院	福岡県
613	福岡大学筑紫病院	福岡県
614	福岡大学病院	福岡県
615	福岡通信病院	福岡県
616	医療法人八八会 有田胃腸病院	大分県
617	宇佐高田医師会病院	大分県
618	大分県厚生連鶴見病院	大分県
619	大分大学医学部附属病院	大分県
620	九州大学病院別府病院	大分県
621	社会医療法人恵愛会 大分中村病院	大分県
622	社会医療法人 敬和会 大分岡病院	大分県
623	社会医療法人社団 大久保病院	大分県
624	社会医療法人関愛会 佐賀関病院	大分県
625	特定医療法人明徳会 佐藤第一病院	大分県
626	日本赤十字社 大分赤十字病院	大分県
627	一般財団法人潤和リハビリテーション振興財団 潤和会記念病院	宮崎県
628	串間市民病院	宮崎県
629	藤元総合病院	宮崎県
630	都城市郡医師会病院	宮崎県
631	宮崎大学医学部附属病院	宮崎県
632	出水総合医療センター	鹿児島県
633	医療法人聖心会かごしま高岡病院	鹿児島県
634	医療法人博康会 アクラス中央病院	鹿児島県
635	鹿児島厚生連病院	鹿児島県
636	鹿児島市医師会病院	鹿児島県
637	雁の巣病院	鹿児島県
638	公益財団法人昭和会 今給黎総合病院	鹿児島県
639	公益社団法人鹿児島県済会 南風病院	鹿児島県
640	国立大学法人 鹿児島大学病院	鹿児島県
641	独立行政法人国立病院機構 鹿児島医療センター	鹿児島県
642	荒尾市民病院	熊本県
643	熊本大学医学部附属病院	熊本県
644	国立病院機構熊本医療センター	熊本県
645	済生会熊本病院	熊本県
646	社会医療法人社団高野会 高野病院	熊本県
647	独立行政法人国立病院機構熊本南病院	熊本県
648	独立行政法人労働者健康福祉機構 熊本労災病院	熊本県
649	伊万里有田共立病院	佐賀県
650	医療法人 ひらまつ病院	佐賀県
651	済生会唐津病院	佐賀県
652	佐賀市立富士大和温泉病院	佐賀県
653	佐賀大学医学部附属病院	佐賀県
654	多久市立病院	佐賀県
655	独立行政法人地域医療機能推進機構 佐賀中部病院	佐賀県
656	独立行政法人国立病院機構 嬉野医療センター	佐賀県
657	独立行政法人国立病院機構 佐賀病院	佐賀県
658	地方独立行政法人 佐賀県医療センター 好生館	佐賀県
659	日本赤十字社 唐津赤十字病院	佐賀県
660	医療法人緑十字会 高原中央病院	長崎県
661	佐世保市立総合病院	長崎県
662	春回会 井上病院	長崎県
663	独立行政法人国立病院機構 長崎医療センター	長崎県
664	長崎大学病院	長崎県
665	日本赤十字社 長崎原爆病院	長崎県
666	医療法人おもと会 大浜第一病院	沖縄県
667	医療法人真徳会 沖縄メディカル病院	沖縄県
668	社会医療法人仁愛会 浦添総合病院	沖縄県
669	友愛会豊見城中央病院	沖縄県
670	琉球大学医学部附属病院	沖縄県

## 理事会・各種委員会報告

### 平成27年第4回理事会報告

理事長 藤本 一眞

主な議題：

#### 1. 第14回総会学術集會会長候補、平成30年度教育集會当番世話人候補の選出

例年12月の理事会で選出していた両候補について、会場確保や協賛企業への依頼等のスケジュールにより、本年度から9月の理事会で選出を行うことになった。

上記候補は下記の通り決定し、平成28（2016）年2月26日の代議員会で最終承認となる。

第14回総会学術集會会長候補：

加藤 広行 理事（獨協医科大学 第一外科学）

平成30年度教育集會当番世話人候補：

小澤 壯治 理事（東海大学医学部 消化器外科）

#### 2. 平成28年度就任監事候補の選出

平成29（2017）年2月の代議員会にて現監事3名が同時に定年となることから、来年度監事を1名追加しておくことが承認され、下記候補が選出された。上記同様、平成28（2016）年2月26日の代議員会で最終承認となる。

平成28年就任監事候補：

高橋 信一 代議員（杏林大学医学部 第三内科）

#### 3. 日本専門医機構内「未承認診療領域連絡協議会」への申請

現在、日本専門医機構に専門医として認められていない学会の専門医制度は、本連絡協議会に申請することによって、将来的な検討対象に入れる可能性があるため、今後の学会のあり方などを検討した結果、日本専門医機構内に設けられている「未承認診療領域連絡協議会」への申請をすることが承認され、必要書類の準備が整い次第、速やかに申請することが決定した。

### カリキュラム検討部会報告

委員長 松久 威史

平成27年9月17日（木）、東京八重洲ホールで平成27年度第1回専門医制度審議委員会下部カリキュラム検討部会が開催された。

本学会理事会（2015年9月4日（金）開催）において、専門医制度に関する学会の方針が暫定的に決定し、日本専門医機構に

設けられた未承認診療領域連絡協議会に入会申請書を提出することとなった。それに伴い、カリキュラム検討部会で検討中のカリキュラム案の再修正が行われた。

カリキュラム総論の大きな修正は行わなかったが、各論の食道疾患、胃・十二指腸疾患、小腸疾患、大腸疾患、各項目の記載形態を統一し、第二階層までの記載とすることにより見やすくした。また、各研修項目について、カリキュラム評価票の知識、技能、態度、症例経験到達レベルを再検討し、態度については総論の消化管の解剖・生理学を除きすべてレベル3（総合的臨床判断に反映できる）、知識については、総論は3（高度な相談に応じることができる）、各論は2（個々の事例について、的確な内容を具体的に説明できる）、各論のまれな疾患は1（概念と意義を説明できる）と修正した。

消化器以外を専門とする医師（小児科、放射線科、救急、病理）にも専門医の資格を取得できるよう、小児科疾患の追記を行うこととなり、山本貴嗣副委員長が中心となり清水俊明先生（順天堂大学医学部小児科学）にもご協力をお願いした。その結果、新たな疾患が追加され内容が充実し、カリキュラム評価票の知識、技能、態度、症例経験到達目標レベルも決定した。

各委員の度重なるご協力、ご尽力に感謝したい。

### 試験問題作成部会報告

委員長 河合 隆

平成27年度専門医審議委員会下部第1、2回試験問題作成部会を平成27年4月7日（火）および10月19日（月）に東京八重洲ホール会議室にて行いました。

2016年から2年間、暫定専門医から正規専門医に移行していただくため試験を行います。試験方式としてInternet-Based Testing (IBT) 方式を導入することが既に専門医審議委員会決定しており、今回の委員会では、各委員の先生方に作成いただいたIBT試験を行う際の問題を50問選定し、確認作業を行いました。現在確認作業が進行中であり、11月に再度委員会を開催し最終確認を行う予定です。試験問題は、選択式であり、一般問題と臨床問題を合わせた形式にすることにしました。出題範囲は原則消化管学会胃腸科専門医カリキュラムに従って作成しております。受験は期間中1回とし、複数回受けられる仕様には

JIMRO

難治性疾患治療の選択肢を広げる

Adacolumn®

血球細胞除去用浄化器

アダカラム® (保険適用)

特徴

- アダカラムは、活動期潰瘍性大腸炎および活動期クローン病の寛解を促進、症状を改善する治療用医療機器です。
- 全身治療を必要とする膿毒性乾癬に対する機能が認められています。
- アダカラムは、末梢血中の顆粒球および単球を選択的に吸着する、体外循環用カラムです。
- 治療時間が60分と短く、患者さんの負担が少なくて済みます。

効能・効果、禁忌、使用上の注意等については、添付文書または製品情報概要をご参照下さい。



医療機器承認番号：21100BZZ00687000

資料請求先  
株式会社 JIMRO 東京事務所 学術部 〒151-0063 東京都渋谷区宮ヶ谷2-41-12 宮ヶ谷小川ビル  
TEL: 0120-677-170 (フリーダイヤル) FAX: 03-3469-9352 URL: http://www.jimro.co.jp

胃腸の弱いもので、食欲がなく、みぞおちがつかえ、  
疲れやすく、貧血性で手足が冷えやすいものの  
**食欲不振、胃炎、  
消化不良に**

43 ツムラ六君子湯  
エキス顆粒 (医療用) (薬価標準収載)

■効能又は効果、用法及び用量、使用上の注意等は、製品添付文書をご参照下さい。

http://www.tsumura.co.jp/  
株式会社ツムラ ●資料請求・お問い合わせは弊社MR、またはお客様相談窓口まで。  
Tel.0120-329-970

■使用上の注意等の改訂には十分ご留意下さい。(2015年10月制作) NX043X01-K

せず、50問1セットで出題します。試験のアクセス期間は1ヶ月間、最終的に回答を確定（登録）するまでは、何度でも修正可能とします。

今後のスケジュールとしては、2015年11月末までに本部にて試験問題の確認作業、細かい修正を行い、テスト画面を完成させ、2016年2月～3月にかけて試験問題部会の先生方で最終確認をして、遅くとも2016年3月末までに完成予定です。最終的には専門医審議委員会および理事会の承認後に最終決定します。

## 広報委員会報告

委員長 三輪 洋人

従来、広報委員会の主な仕事は、ホームページの作成・更新とニュースレターの作成の二つでした。消化管学会では設立10年が経過したことを機に、ホームページのリニューアルを計画してきましたが、広報委員会はそのリニューアル業務を行いました。現在、新たなデザインと機能を取り入れたホームページの刷新が11月末を目指して続けられています。このニュースレターが会員の先生方のお手元に届く頃には、すでにリニューアルが完了していると思われます。

また、これまで本学会が和文の学会誌を保有していないことから消化管学会に発表する演題を業績として引けないとの意見があったため、消化管学会では年2回学会和文誌を発行してそのうちの1回に学会抄録を掲載することとなりました。これまで抄録集とされていたものが和文誌として発行されるわけです。これによって、学会発表が業績として引用されやすくなります。また2回のうち1回は現在のニュースレターの内容を中心として冊子を編集することとなりました。これらの業務を施行するため、学会誌編集委員会の下部組織として和文誌編集委員会が発足し、ニュースレター発行業務はこの委員会に引き継がれます。できれば来年度から和文誌発行を行おうと考えています。

なお、ニュースレターに関しては、本年度はこれまでと同様に継続して行うこととしましたが、これに先駆けて掲載記事を業績として引けるようにするためにISSNを取得しました。

## 学会誌編集委員会報告

委員長 篠村 恭久

学会誌編集委員会は、本学会のofficial journalである*Digestion*誌のJGA Special Issueの編集を担当している。来年1月に発刊予定であるJGA Special Issueには、本年の第11回学術集会（田尻久雄会長）で発表された優秀演題から投稿された論文10編を掲載予定である。また、*Digestion*誌（regular issue）のEditor-in-ChiefおよびAssociate Editorを本学会員が務め、アジアから投稿される論文の選定を行っている。*Digestion*誌に掲載された本学会員の論文が多く引用されて*Digestion*誌のimpact factorを上げることが本学会の国際的な評価を高めるうえで極めて重要である。学会員の皆様には、ぜひ*Digestion*誌に優れた論文を投稿いただくとともに、2014年以降の*Digestion*誌の論文をできるだけ引用いただきたい。

本学会は、この度、*Digestion*誌に加えて、新たに学会和文誌

を発刊することを決定し、学会誌編集委員会の下部組織として英文誌編集部と和文誌編集部が置かれた。和文誌編集のため新たに編集委員が任命され、和文誌編集委員長には三輪洋人理事が就任した。今後、和文誌の編集方針を討議の上、初刊の発刊に向けて編集を開始する予定である。

## 国際交流委員会報告

委員長 城 卓志

5月1日の第3回理事会で国際交流委員長を拝命致しました。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

さて、本委員会では、引き続きACGとの交流を密にしていこうという目的から、今後、ACGで発表する若手会員に対する渡航費助成を検討しています。第4回理事会で提案の大筋は認められましたので、平成28年度予算に盛り込み、来年度より実施できるように準備を進める予定です。

理事会で予算が承認され来年の代議員会で最終承認を得次第、詳細は学会ホームページ等に掲載する予定です。ACGで発表を希望される若手会員の皆様は今後の学会からのお知らせにご注意ください。

## 総務委員会報告

委員長 城 卓志

総務委員会では、会員の皆様により多くの利便を図り、また、学会活動がより円滑に行われるよう、今年度は次の3つについて検討を進めております。

- ①交通費規定の改定：これまで、他学会に比べ地域的に一部差があった委員会・部会出席の際の交通費・日当について、ほぼ同水準になるように改定を行い、理事会でも承認いただきました。9月4日の理事会以降開催される委員会・部会については、新しい交通費・日当規定が適用されます。
- ②日経メディカル社とのコラボレーション：これまで学会広報活動の一助として、総会学術集会の特集記事を日経メディカル特別号として発行してきましたが、今後は、年1回冊子体を発行する形ではなく、日経メディカル社のメールマガジンの会員宛配信、または日経メディカル社のホームページに本学会のホームページをリンクさせることにより、より多くの関連情報に接していただけるよう、検討中です。具体的な方法についてはまだ決定しておりませんが、こうした形でのコラボレーションを行うことについては理事会の承認を得られたため、具体的な内容が決まり次第、ご案内する予定です。
- ③マイページのリニューアル：広報委員会でご案内があった通り、本学会創立10周年の節目として、ホームページをリニューアル致しました。については、ホームページ上に搭載されているマイページも同様に、より使いやすくリニューアル致します。これまで事務局に寄せられたご意見等もできる限り反映しているつもりですが、さらに何かございましたら、事務局宛にご意見をいただきたく存じます。

## 日本消化管学会 プライバシーポリシー

### 1. [目的]

日本消化管学会プライバシーポリシー（以下プライバシーポリシーと略す）は、会員および本学会の活動に参加する非会員の個人情報の保護およびその有効利用を目的とする。

### 2. [個人情報の定義]

「個人情報」とは、日本消化管学会が電子メール、郵送、FAX等で会員および本学会の活動に参加する非会員から提供を受けた住所、氏名、電話番号、電子メールアドレス等、特定の個人を識別できる情報をいう。

### 3. [個人情報の収集]

日本消化管学会が会員あるいは本学会の活動に参加する非会員の個人情報を収集するのは、本学会の事業目的に沿って行う、サービスの提供、会員名簿の作成、調査研究、および過去に集められた個人情報を更新する場合に限るものとする。

### 4. [学会による個人情報の管理]

日本消化管学会は、収集した個人情報が外部へ漏洩したり、破壊や改ざんを受けたり、紛失することの無いよう厳重に管理することとする。保存された登録情報の管理については、漏洩の防止措置を講ずるものとする。ただし、技術上予期し得ない方法による不正アクセス等により改ざん・漏洩等の被害を受けた場合には、本学会はその責を負わないものとする。

### 5. [個人情報の開示]

ア) 日本消化管学会が収集した個人情報は、業務に必要な場合、

必要最小限の範囲で守秘義務契約を結んだ上で外部委託業者に提供することがある。また、情報の統計を、個人を特定する情報を含まない形で第三者に提供する場合がある。これらの情報提供は、提供者に対して同意を得ることなく行われることがある。

イ) 個人情報については、次のいずれかの場合には収集目的以外の目的に開示または提供することがある。

1. 法的な手続きに基づき、開示または提供を求められた場合。
2. 個人情報提供者が情報の開示または提供に同意・承諾した場合。
3. 本学会の事業目的に沿って行う情報配信サービスや、本学会運営上必要な事務連絡等の目的で電子メール等を送付するため、個人情報を利用する場合。
4. その他、総会または理事会で承認された事業計画を達成するために正当な理由がある場合。

### 6. [改定および適用について]

本プライバシーポリシーの改定は、理事会において議決する。すべての改定は本学会より会員に速やかに通知するものとする。日本消化管学会が個別に定める規則により個人情報に関わる規則が定められた場合は、定められた個別規則を優先し適用するものとする。

以上

※このプライバシーポリシーは、日本消化管学会のホームページでご覧になれます。

<http://www.jpn-ga.jp/privacy.html>



機能性ディスペプシア(FD)治療剤(アコチアミド塩酸塩水和物錠)

薬価基準収載

**アコファイド<sup>®</sup>錠100mg**

処方箋医薬品  
(注意-医師等の処方箋により使用すること)

**Acofide<sup>®</sup> Tablets 100mg**

■「効能・効果」「用法・用量」「禁忌を含む使用上の注意」等につきましては、製品添付文書をご参照ください。

製造販売元 **ゼリア新薬工業株式会社**

東京都中央区日本橋小舟町10-11

[資料請求先] お客様相談室 (03)3661-0277

受付時間9:00~17:50(土日祝日・弊社休業日を除く)

発売元 **アステラス製薬株式会社**

東京都中央区日本橋本町2-5-1

[資料請求先] メディカルインフォメーションセンター ☎0120-189-371

2015年4月作成

## Digestion 誌査読者リスト

平成26(2014)年9月～平成27(2015)年8月末までに本学会オフィシャルジャーナルDigestion誌の査読を下記の先生方をお願い致しました。お忙しい中、ご協力をいただきました先生方に御礼申し上げます。

(所属、名簿掲載の可否は2015年10月9日会員データに基づく)(地域別、五十音順、敬称略)

北海道	東北	関東	関東	近畿	近畿	中国	九州
加藤 元嗣 鈴木 拓 能正 勝彦 岡部 克弘	三上 達也 関東 朝倉 均 天野 祐二 伊東 文生 稲尾 優海 岩切 勝彦 小村 伸朗 加藤 広行 河村 修 木村 英明 栗林 志行 松本 圭之	後藤田 卓志 斎藤 豊 鈴木 秀和 鈴木 康夫 谷口 礼央 徳重 克年 長堀 正和 中村 真一 平石 秀幸 堀江 俊治 本田 靖弘 松橋 信行 溝上 裕士	八尾 隆史 甲信越 寺井 崇二 東海 大宮 直木 佐々木 誠人 中田 浩二 永原 章仁 中村 正直 溝下 勤 米田 政志 北陸 有沢 富康	東 健 池内 浩基 井上 拓也 江戸川 祥子 大島 忠之 櫻田 博史 加藤 順 久津見 弘 佐藤 太郎 斯波 将次 杉本 光繁 高木 智久 竹内 利寿	富永 和作 内藤 裕二 西田 淳史 根引 浩子 能田 貞治 樋口 和秀 藤原 靖弘 水島 恒和 三輪 洋人 森田 圭紀 渡辺 憲治 渡辺 俊雄	足立 経一 岡 志郎 北台 靖彦 塩谷 昭子 田中 信治 平岡 佐規子 眞部 紀明 磯本 一 於保 和彦 兒玉 雅明 高津 典孝 中村 和彦	馬場 秀夫 平井 郁仁 藤本 一眞 松井 敏幸 光山 慶一 村上 和成 沖縄 金城 徹

## 会員の皆様へー事務局からのお知らせー

## 学会の研究活動について

日本消化管学会では以下の表彰、研究助成を行っています。

## 【日本消化管学会賞について】

日本消化管学会では優れた臨床的、基礎的な研究を発表した会員に年度ごとに学会賞を授与し、学会員の学術活動の活性化と若手研究者の育成をはかります。

学会賞は以下の4種があります。

1. 日本消化管学会最優秀賞
2. 日本消化管学会優秀症例報告賞
3. 日本消化管学会奨励賞
4. 日本消化管学会最優秀サイテーション賞

応募条件、推薦書は学会ホームページにてご確認ください。

現在平成28年度の推薦を受け付けております(2016年8月31日必着)。4については学会賞選考委員会で調査を行うため、応募不要です。多くのご応募をお待ちしております。

なお、平成27(2015)年度の審議は終了し、平成28(2016)年2月26日～27日の第12回総会学術集会の懇親会にて受賞者の表彰を行います。

## 【日本消化管学会多施設共同研究助成について】

日本消化管学会は、優れた多施設臨床研究計画に対して研究助成を行い、日本における消化管領域の臨床研究のレベル向上を目指しています。

2016年度の募集期間は2016年3月1日～3月31日です。申請に関する情報は2016年1月中旬にホームページに掲載致します。

## 【ガイドライン小部会の研究成果について】

「早期胃癌の拡大内視鏡分類と関連する用語」の国際的統一基準の作成に関する論文投稿のお知らせ

平成25(2013)～26(2014)年度ガイドライン小部会の課題であった「早期胃癌の拡大内視鏡分類と関連する用語」の国際的統一基準の作成に関する論文(“Magnifying Endoscopy Simple Diagnostic Algorithm for Gastric cancer: MESDA-G”)が完成し、消化器内視鏡学会、胃癌学会との連名で11月初旬に日本消化器内視鏡学会のDigestive Endoscopy誌に投稿致しました。Open accessでの投稿となっておりますので、ぜひご期待ください。

## 「食道運動障害診療指針」発刊のお知らせ

平成26(2014)～27(2015)年度のガイドライン小部会の

課題であった「食道運動障害診療指針」に関する部会活動が終了し、平成28(2016)年2月の代議員会までに成果物(ハンドブック)が発刊される予定です。

本指針はhigh-resolution manometry (HRM) を中心として、①初心者に分かり易い入門書的な内容、②可能な限り図表を多く、③基本原理、基礎、病態、治療までを簡潔に網羅することを目標に作成してまいりました。食道学会に協力学会として連携していただいております、HRMの有用性をより広く診療に携わる臨床医へ広めていくことができると確信しています。ぜひ、お手に取ってご覧いただければと思います。南江堂から発売の予定です。

## マイページについて

ホームページのリニューアルに伴い、マイページもリニューアル致します(1月から変更予定)。これまでご意見・ご希望をいただいたことを反映したつもりです。ご利用いただき、ご意見等ございましたら、事務局までお寄せください。

## 会費について

昨年よりご案内しておりますが、会費滞納が5年以上になりますと、強制的に退会手続をさせていただくこととなります。年度末(12月末)に5年以上滞納の方を翌年1月末付で退会手続致しますので、学会活動の継続をご希望の先生方は、ご注意ください。

## JGA NEWSLETTER 編集組織

## 広報委員会

委員長 三輪 洋人

委員 岩切 勝彦、岩本 淳一、徳永 健吾、  
古田 隆久、堀木 紀行

お問い合わせ：一般社団法人日本消化管学会事務局 (JGA事務局)

〒112-0005 東京都文京区水道2-1-1

株式会社 勁草書房 コミュニケーション事業部内  
樋口/佐々木/椎野

TEL: 03-5840-6338 FAX: 03-3814-6904

E-mail: jga-secretariat@keiso-comm.com

※学会、研究会、講演会等でニュースレターの配布をご希望の方は、お送り致しますので、事務局までご一報ください。